

平成 27 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定締結集落名：宮古島漁業集落

交付金額：4,352 千円（基本交付金のみ）

協定参加世帯数：64 人（うち漁業世帯 32 人）

集落漁業者平均所得：1,481 千円

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、好漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や創意工夫を活かした取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

◇種苗放流（シラヒゲウニ及びハマフエフキの放流）

水産資源の維持・回復に向けシラヒゲウニ及びハマフエフキの放流を実施。

実施日	実施海域	種名	放流数
H27.7.15	狩俣地区	シラヒゲウニ	2,600 個
H27.7.21	保良地区	シラヒゲウニ	1,800 個
H27.11.8	保良地区	ハマフエフキ	2,800 尾
H28.2.28	西原地区	シラヒゲウニ	800 個

実施状況写真



種苗積込状況



種苗放流状況

◇漁場の管理・改善（サメ駆除）

漁業被害をもたらしているサメの駆除を実施。

実施状況写真



駆除の準備



駆除の状況

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

◇高付加価値化

・宮古島産のモズク等の高付加価値化を図るため、県外事業者等への視察及び品質管理向上に関する意見交換を実施。

・活け締めによる鮮度保持技術を高付加価値化につなげるため、活け締めであることを表示するためのタグの製作、導入を実施。

実施状況写真



事業者との意見交換(熊本県)



事業者との意見交換(福岡県)

◇漁具漁法の改良

追い込み網漁業で使用する袋網及び袖網について、サンゴ礁等へ与える環境負荷を低減することを目的としてナイロン製の網を試験的に導入。

◇伝統漁法の復元

追い込み網漁業の復元に向け、網の製作・補修についての実地研修を実施。

実施状況写真



網製作・補修実地研修の様子



網製作・補修実地研修の様子

◇その他（モズク培養技術向上の取組）

モズク種苗の純粹培養技術の向上定着を図るため、種苗保管の状態を改善することを目的として冷温庫を購入。

◇その他（体験漁業の取組）

宮古島の漁業の魅力発信に向け、中学生向けに追い込み網漁体験を実施。

実施状況写真



追い込み網漁体験の様子



追い込み網漁体験の様子

4. 取組の成果

漁場の生産力の向上に関する取組においては、シラヒゲウニ及びハマフエフキ放流により水産資源の維持・回復が見込まれ、放流漁場での漁業の継続性に繋げることができた他、サメ駆除の実施により漁業被害の軽減が見込まれ、安全操業の確保及び今後の漁獲量の向上が期待されている。

漁業の再生に関する実践的な取組のうち、高付加価値化の取組においては、モズクの品質向上や活け締めタグを活用した鮮度アピール等により水産物のブランド化に向けた価値向上が期待される。漁具の改良については、サンゴ礁等へ与える環境負荷の低減が見込まれるとともに生産性の向上が期待できる。モズク培養技術向上の取組については、種苗の保管状態が改善されることで、培養技術の向上定着につながる見込みである。また、伝統漁法の復元と連動した体験漁業の取組を実施することで漁業の魅力発信や子供達が漁業と触れあえる機会が創出できたことから、将来に向けた後継者確保についての啓発へとつなげることができた。